

京交山岳部報

例会予告（2018年1月～2018年2月）

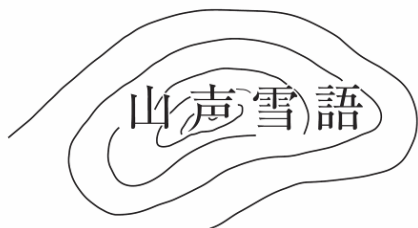
例会・行先	日程・集合	担当者	コース
第2775回 初登山 犬打峠から 鷲峰山 (1等△681.0)	1月8日(祝・月) 集合 竹田駅西口 AM9時	清水康裕 岡本義弘 吉田 武	竹田駅～R24～R307 郷の口～犬打川 ～犬打峠～林道登山口～鷲峰山往復～ 郷の口～竹田駅
備考 恒例のゼンザイを作りますので、各自モチを持参してください。費用は山岳部会計より負担します。			
第2776回 柵池スキー	1月31日(水) ～2月2日(金) 集合 参加者で 調整	吉田 武	(1日目)京都東IC(名神・中央・長野 道)安曇野IC～R147～柵池スキー場 午後よりスキー (2日目)終日スキー (3日目)午前スキー～R148～糸魚川IC ～敦賀IC～R8・R161・R1～京都
備考 ホテル白馬ベルクハウスに宿泊			
第2777回 府民冬の自然観察会 (岳連自然保護委員会 主催) 野鳥観察会	2月25日(日) 集合 AM9:00 場所 阪急西京極 駅前広場	方山宗子 岡田茂久	西京極駅・桂川左岸・R9西大橋 ・上野橋・桂川右岸・阪急松尾 神社前 (状況により桂大橋往復もあり)
備考 [持ち物] 日帰りハイキング装備, 登山靴が望ましい。防寒具(防寒対策を十分に), 双眼鏡(あればフィールド ドスコープ), 雨具, 行動食, 筆記用具, ごみ袋, カメラなど。 [参加費] 500円(参考資料代他) ※ 小中学生は無料(保護者同伴のこと) [講師] 日本山岳SC協会認定 自然保護指導員 尾松建二 委員 中島睦美 委員 [天候] 前日18時以降のNHK TV天気予報で, 25日午前の降水確率60%以上の場合は中止。 [申し込み締め切り] 2月21日(水)までに担当者まで連絡ください。			
※ 是非一度山岳連盟自然保護観察会に参加してみませんか。きっと新しい世界が開けますよ。			
1月の集会(新年会)		1月の企画運営委員会	
日時 1月15日(月)18:30～ 場所 「かごの屋」四條烏丸下ル西側		日時 1月24日(水)18:30～ 場所 holly's café(ホリーズ カフェ)	

2月の集会

日時 2月 8日(木) 18:30~
場所 holly's café (ホリーズ カフェ)

2月の企画運営委員会

日時 2月21日(水) 18:30~
場所 holly's café (ホリーズ カフェ)



西郷どん

清水 康裕

旧年中、皆様にたいへんお世話になり、誠にありがとうございました。今年もよろしくお願ひします。

今年は戌年である。

上野の西郷さんは犬を連れている。着流し姿に愛犬ツンを連れているのだ。だから今年のNHK大河ドラマは「西郷どん」なのか。勝手に思っている。

我が部の山行ではないが、民主党政権時代に高速道路料金が1,000円の時、長時間運転してもらって職場の皆さんと開聞岳、韓国岳、噴火前の新燃岳へ行った。また、知覧特攻平和会館を見学し、指宿の砂風呂に入り、堪能した。そのとき、城山にも立ち寄った。城山公園近くの中央公民館前に軍服姿の西郷さんが立っている。上野の西郷さんとは対照的に鹿児島西郷さんは凛々しい。不平士族に担がれ西南戦争で政府軍と戦った西郷隆盛は城山で最後の武士として消え去った。その後近代的な軍隊が育っていくことになる。

近くの県文化センター前に小松帯刀が立っている。小松帯刀は昔の大河ドラマの「篤姫」で知ったのだが、薩摩藩の家老で、西郷隆盛、大久保利通と並んで薩長同盟の立役者である。1870年(明治3年)に病気で亡くなっている。

西郷隆盛が奄美大島に流罪となった時の島妻の愛加那との間に生まれた子が西郷菊次郎である。西郷菊次郎は第2代京都市長で明治末年から大正初年に掛けて、「第二琵琶湖疏水開削」、「上水道整備」、「道路拡築張および市電敷設」の京都市三大事業を行った。京都市民として誇らしい。

ところで、初登山は犬打峠から鷲峰山へ登る計画である。恒例のぜんざいをする。多数参加をお願ひしたい。

(2017. 12. 23. 記)

【第2773回例会】

山岳連盟自然保護委員会主催「府民紅葉観察会」

岡田 茂久

2017年11月23日(日)、天候は昨夜半までの雨は上がり天候は上々である。今年紅葉が早く鮮

やかな時期は少し遅いようだが、それでも集合場所のJR山崎駅前には、多くの登山客に交じり山崎美術館に向かう人々で混雑している、集合時刻の9時には岳連旗を目印に多くの参加者が集まり、連盟会員・一般参加者含め39名、委員14名、計53名の賑やかな観察会となった。

委員長挨拶のあと、駅前広場の東側に直面し、国宝で千利休の建立の日本最古の茶室建造物である「待庵（たいあん）」、妙喜庵（みょうきあん）の説明があった。

JRの踏切を渡り右折して、山崎院跡（奈良時代行基が建てた寺）、蛇姫池、新たに調査中の大山崎瓦窯跡（平安宮の瓦を焼いた）を経て、過年には京交山岳部担当であった府下一斉清掃登山の集合場所であった「桜の広場公園」につく。

ひときわ目立つ大きな木はトウカエデ。中国原産で紅葉が美しい。葉は浅く3裂する。イロハカエデは真っ赤に紅葉している。イロハカエデなど赤く紅葉する葉は、糖分から赤い色素アントシアニンをつくっている。葉は赤くなって落葉が始まる。イチョウやタカノツメ等の黄色の葉は赤い色素をつくることできない。紅葉になる条件は気温が低い・日当たりが良い・温度差が大きい・十分な水分が摂れることという。今年は紅葉になる条件には恵まれた年ようである。



ここで新しい情報、今までモミジやカエデは「カエデ科」という分類であったが、近年になり「ムクロジ科-カエデ属」と「科・属」の分類が変更されたようである。

「山崎聖天」と「観音寺」の石柱の立つ坂道を登る。山崎聖天（やまざきしょうてん）は通称で正式には観音寺と言う。稲荷神社のところで右折すると、「観音寺」の山門前に「不許葷肉入山内」の石碑がある。「葷」は匂いのくさい（ネギ・ニンニク・ニラなどの精の付く野菜）。肉は古語でシシと読んだ（**鹿**と**猪**の肉を指し鳥は除く）。ちなみに他の多くの寺院では「不許葷辛酒肉入山門」となっているが、観音寺のは辛（からいもの）と酒が抜けている。酒は許されたのであろうか。



何時のことだったか、山門からの急な石段の側溝に「つぶら椎」の実が掌で掬い取れるほど落ちていたことを思い出す。かつてはこの辺りは桜の名所であったが、近年になり古木の枯死が目立つようになり惜しいことだ。

「山崎聖天」境内を抜けて急坂を登り、途中から左の竹林の道を進み宝寺からの登り路に合流、青木葉谷広場に着いた。この辺り「アオキ」の木が目立つ、アオキは雌と雄の木があり子房があるのが雌花である。アベマキが黄色に紅葉している。葉の裏が白いのがアベマキ。幹肌はごつごつしており欧米ではコルクの材料となる。クヌギの葉の裏はつるつるで黄緑色で幹肌も平滑である。



広場からは大阪方面から金剛山方面まで展望が開けているが、今日は残念ながら遠くは霞んでおり、阿倍野ハルカスも確認できない。

さらに階段道をあえぎ登ると「旗立松」である。現在の松は未だ若木で6代目であるという。天王山の戦いの折に秀吉が味方鼓舞のため松に旗を立てたという故事があり、「旗立」というが実際は千成瓢箪を立てたようだ。



「酒解神社」の石の鳥居があり。ここに陶板画で「秀吉の中国大返し」の説明がしてある。説明版以外のうんちくを少し。

天王山の「秀吉の中国大返し」は今から435年前、本能寺の変で信長は自殺に追いやられた。折から秀吉は毛利と岡山で対戦しており、このことを知らせる毛利に宛てた明智の密書が手違いで秀吉の手に渡り、秀吉は毛利と急遽和睦し、わずか10日で岡山から山崎までの200km余を引き返し、3万～4万の大軍で上牧に陣をはり、一方の明智は頼みの大和の筒井順慶、丹後の細川は来た

らず、1万数千の寡勢であり、天王山と淀川の湿地がせまる狭い所で、寡勢が多勢を迎える常套の陣を構える予定であった。秀吉側でもそのように予測していたようである。ところが、明智は当時から交通の要所である山崎の町衆の関心を引くため、事前に山崎は戦場にしないと約束しており、馬鹿正直に狭い地形の山崎を避け、円明寺川の東側の開けた場所に陣を張ってしまったのである。その為明智側でも天王山から逆落としに攻め込む方が有利なことは分かっていたが、陣が広がったため兵力が不足し、天王山には兵を配置する余裕はなかったのである。

戦いの場は大山崎 IC あたりで、天王山東側の桂川堤から攻撃した秀吉軍に押され、明智軍は勝竜寺城に引かざるを得、その夜にはわずか数百の寡兵しか残らない惨敗を喫した。

明智光秀は居城の琵琶湖西岸の坂本城に逃れる途中、山科で土民に討たれ最後を遂げる事になる。勝竜寺城は細川藤孝（幽斎）の城であったが、当時は細川は舞鶴（田辺城）が領地になっていた。光秀の娘（玉—細川ガラシャ）は細川藤孝の息の忠興の嫁であり、もし、勝竜寺城が細川藤孝の城のままであり、明智軍が聖天さん下付近に陣を張り、天王山に兵を配置していれば歴史はもう少し変わっていたかも知れない。

展望台からは円明寺川、老の坂を源流とし洛西ニュータウンを経て、桂川に合流する天下分け目の主戦場となった小畑川から勝竜寺城周辺が一望できる。

「酒解神社」の石の鳥居からさらに登ると「十七烈士の墓」。長州藩の尊王攘夷派が「禁門の変」（1864年）の戦いに敗れ天王山中で十七人が切腹した場所、追い詰めたのは新撰組である。遺体は宝積寺に下ろし葬られたが、後にこの地に改葬されたもの。「尊王攘夷」は孝明天皇がふと「朕は夷狄（いてき）は嫌いだ」と漏らされたのが始まりという説もある。

「十七烈士の墓」の右上にある大きな防火用貯水タンクは名神高速道天王山トンネルの湧水を汲み上げて貯水している。

さらに進むと、一段高く「三社宮」の祠が並んでいる。天照大神、月読大神（壱岐対馬から渡来の海の神）、蛭子大神（古事記にある国生みのイザナミ・イザナギの最初の子）を祀っている。

やがて自玉手祭来酒解神社（たまでよりまつりきたるさかとけじんじゃ）である。飛鳥時代に橘諸兄の建立で、玉川の流れる京都府相楽郡の井手町井手寺（円堤寺）が、境界神・道祖神である酒解神を祭っており、「玉手」とは「玉川」「井手」の二つからなる合成地名と考えられるという。山崎は山城・摂津の境界に当たり、仁明天皇）のときに天王山へ勧請したとある。

神社左手の神輿庫は正倉院の校倉造とは異なり、鎌倉時代の板倉形式で建設されたもので重要文化財。酒解神社は素戔男尊（スサノオノミコト）を祀っているが、素戔男尊とは牛頭天王のことであり、牛頭（ごず）天王を祀った天王社になり、天王社から天王山になったという。天王山の名前の由来である。山崎は山の先の出っ張った所の意味。

神輿庫の背後の高木で黄色に紅葉しているのはカラスザンショウ。さらに進み急坂を登ると天王山々頂（天王山城址）である。

応仁の乱の頃に砦が築かれたのが始まり。秀吉が「天王山の戦い」の折に山頂の砦を修復した。

現在でも虎口、井戸、堀、石垣や郭の遺構が残っている。本丸跡の一段下の郭には井戸跡がある。石垣跡のある南面から西面は、急な懸崖となり堅固な要害となっている。本丸跡の登り口の急坂が虎口である。本丸跡の一段高くなった場所が標高 270.4m。大山崎町は天王山にはもともと三角点は無かったというらしいが、国土地理院の昭和 60 年の地図には三角点の記載がある。国土地理院地図にも現在は三角点が無く、天王山から西北 1km 程の十方山 (304.3m) に三角点がある。

陽だまりで三々五々昼食を摂った後、本丸跡から北西の浄土谷方面に向かう急な道を降る。やがて、登山路北側の竹林が大きく切り開かれ、進入禁止の看板が掛けてある先に見える小さな池が「竜神池」。この竜神池は小倉神社にある竜王神社の祠が元安置してあった跡である。竹林伐採前は鬱蒼とした樹々に囲まれた神秘的な池であったが、現在は明るく登山路からも良く見える。池の上流側の北側の斜面に石積みの階段が残っている。竹林伐採跡から無理に入らなくても、少し浄土谷寄りにある分岐点から入れば石積みの階段に出る

やがて竹林が失くなり樹相も変わってくる。この辺りは昔は木のない岩山であったというが、やがて乾燥に強い松が生えて燃料にも使われ、戦後は植林でアマツが増え松茸も良く取れたという。しかし、今では燃料にも使われ無くなり松林は荒廃し松茸も出なくなった。その後、サントリーの所有する地所になり、大山崎町と共同でマツタケ山にする計画が進んでいたがうまくいかなかったようである。



浄土谷への登山路から十方山への分岐点には、登山路の真ん中に白い図根点 (三角点設置のための補助測量点で、通常は三角点設置後は撤去される) 標識が残り顔を出している。十方山三角点設置時に残置されたものだろうか。現在、散見する石柱の図根点は林野庁が国有林の林班界の標識に流用されており、白い樹脂製の図根点標識が残存しているのは珍しい。小倉神社へ

下りる分岐道まで行って引き返す。ここが大山崎町と長岡京市の境界であるが、長岡京市に入ると登山路は極端に悪路となるという。竹林の整備等も進めている大山崎町との自然保護に対する姿勢の違いであろうか。点名「天王」十方山は俗称で、かつてあった私設の標識に由来する。点名「天王」は大山崎町、長岡京市、大阪府島本町の三行政区の収束点である。本来は「天王三国山」ともいべきであろうか。宝積寺 (宝寺) への道から、大山崎美術館に降り解散となった。美術館の中庭広場の紅葉はひととき見事であった。

【参加者】 方山宗子、岡田茂久



【個人山行】H29.11.30

鷲峰山 681.0m 1等三角点

吉田 武

50年間山に登り、山を愛してきた私が、近郊の1等三角点の「鷲峰山」に登っていないことに気が付いた。50年間の山登りの整理をしていた先月に気が付いた。湖西街道を南下して坂本あたりを走っているときに、瀬田川の先に鷲が羽を広げたように見える「鷲峰山」紅葉見学とをかねて登りに？行くことにした。

新年、初登山の下見を兼ねて犬打峠にナビを合わした。

腰越谷3等三角点の登り口は峠より300mほど下がった所のカーブから登山道があった。僕は1993.11.6にこの山に登っている。

犬打峠から少し南下した所より金胎寺の方に林道がつけられている。思っていたよりは距離があったが、金胎寺は後回しにして1等三角点に行く。パラボラアンテナに行く道路わきに駐車して10分ほどで三角点広場に着いた。広い頂上で東側の方が見渡せたが今日の天気ではあまり良くなかった。

標石を写して金胎寺の登り口まで走り金胎寺に参拝して帰路についた。

【参加者】吉田 武, 他1名



1等三角点の看板



1等三角点標石



天測点と頂上広場



天測点

例会報告(まとめ)

例会 No.	目的地	天候	月 日	担当者	参加者	記 事
2773	府民紅葉観察会 (山岳連盟自然 保護委員会主催)	晴れ	平成 29 年 11 月 23 日(日)	方山宗子 岡田茂久		別稿詳報
2774	納山祭 鶴路山	晴れ	平成 29 年 12 月 16 日(土) ～17 日(日)	清水康裕 吉田 武	井戸澄夫	次号詳報

雑 報

△△△ 12月の集会

日 時 12月13日(水) 18:30～
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
出席者 大倉, 岡田茂, 岡本義, 方山, 森本, 清水 計6名
内 容 例会結果, 例会予告, 個人山行, 岳連関係報告ほか

△△△ 11月の企画運営委員会

日 時 11月22日(水) 18:30～
場 所 holly's café (ホリーズ カフェ 烏丸四条西入ル)
出席者 井戸, 岡本義, 方山, 吉田, 清水
内 容 例会予告, 岳連関係報告 ほか

△△△ 他山岳会の会報(受贈分)

12月号 京都山岳, 趣味の登山, 比良山岳, 木雞
12・1月号 山友

△△△ 平成29年度部費について

平成29年12月21日(木)現在, 先月号までに報告した方々に加え次の方から平成29年度部費を受領しましたので報告します。

(敬称略) 岡本義弘, 桂豊

△△△ 平成 30 年 1 月集会兼新年会のお知らせ

担 当 者 松田 誠二

清水 康裕

堀田 剛

日 時 平成 30 年 1 月 15 日(月)18 : 30 ~

場 所 「かごの屋」四条烏丸下ル 地下鉄四条駅 6 番出入口前

TEL 075-353-8936

※京交山岳部 清水名で予約しました。

会 費 1,000 円 (当日徴収)

参 考 参加希望者は、1 月 12 日(金)までに必ず担当者まで連絡をお願い
いたします。

△△△ 日本山岳協会山岳共済保険のお知らせ

平成 30 年度の山岳共済保険に加入希望の方は担当者まで連絡願います。

申し込み及び保険料徴収は平成 30 年 3 月中旬の京交山岳部総会までです。

担当者 井戸澄夫

《新入部員募集中》

平成 30 年 1 月 1 日

京都市右京区太秦下刑部町 1 8

京都市交通局内

京 交 山 岳 部

<http://kkmc.web6.jp>